

「2022年度ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学工学部2年 川崎怜奈

ベトナムの魅力や、新しい場所に飛び込むことの楽しさ、たくさんの人と出会うことの面白さを存分に感じた2週間であった。活気溢れるハノイの街は刺激があり、日々新しくなっていく街にたくさんのエネルギーをもらった。そして、なにより、2週間を一緒に過ごしてくれたベトナム人学生との交流が何にも代えがたい経験となったと感じている。

私は渡航以前、ベトナムについて発展途上国というイメージは強く持っていた一方で、発展途上国といわれる国での実際の生活状況や都市の発展について、日本にいるまま正しく理解をすることの限界を感じていた。そのため、現地での生活を通してベトナムの現在について知りたいと考え、今回のプログラムへの参加を決めた。まず、ベトナム・ハノイについて一番感じたことは、「あれ、自由すぎない、？」という困惑混じりの面白さであった。道にはベトナム料理の店が連なり、歩道に広げられた、小さなプラスチックの青い机とイスでは現地の人々がゆったりと食事を楽しむ。そしてその隣では、これまた歩道にはみ出てバイクが走り、あらゆる家のベランダからは植物が垂れている。片道3車線だろうと信号のない道路をバイクと車の間を縫って横切る人々、あり得ないほどごちゃごちゃとした電線、下を見なければ歩くことのできないガタガタした歩道、夜でもパジャマ姿の子供から散歩を楽しむ大人までが集う公園、狭い路地に広げられた野菜と果物、そしてこれまた後ろからクラクションを響かせるバイク、その全てが、日本の街並みとは全く違う光景であった。しかし、それらが受け入れられる街の雰囲気、人と人との距離の近さを感じさせ、人のエネルギーが直に伝わってくるようで、私にとってとても魅力的であった。

ベトナムで私が一番興味を持ったものは、交通システムであった。バイクが溢れる道路のことはもちろん、昨年11月に開通したばかりのメトロが最も興味深かった。ハノイ初の電車の開通直後に乗ることができたのは貴重な体験だったと感じる。メトロにはまだ乗客はまばらで、大学のすぐ近くに駅があるにも関わらず、学生や先生の中にも乗車したことのある人はほとんど聞かなかった。多くのベトナム人がバイクを保有し、バイクで家のドアから大学の中まで行くことができるからだ。バイクは私にとってハノイの象徴であるが、通勤・通学時の渋滞や排気ガスによる大気汚染や地球温暖化への影響の観点からすると、公共交通機関への転換は必要なのだと思う。しかし、乗客が増えなければ、路線の拡大は難しく、利便性も向上しない。どのように人々の行動を変え、そして数年後にはどのような街並みが広がっているのか変化が非常に楽しみだと思った。

今回のベトナム派遣プログラムを通して、さらに海外での生活や勉強、仕事に興味を持つようになった。進路に関して、3年次から土木を専攻する予定で、もともと、インフラ整備に関わりたいたいという思いがあったが、日本で当たり前だと考えることが当たり前ではない海外で、新しいものを生み出すことにも興味をもつようになった。将来は、日本だけでなく、海外でも地域の風土や文化に合った安全で魅力的な都市の計画に携わってみたいと考えるようになった。また、今後の大学生活に関しては、他にもさまざまな国への留学プログラムに参加したいと考える。留学を通して、新しい文化や街や人に触れ、そして同じ年代の学生たちに大変刺激を受けることができればいいと思う。加えて、留学だけでなく、留学生としてベトナム人学生にしてもらったことを、今度は日本にいる海外からの留学生に自分が返すことのできる機会を積極的につくっていき、日本についても、そして海外についても理解を深めていきたいと考える。ベトナムに関しては、留学を通して観光だけでは感じられなかった、ベトナムの人や社会制度、慣習について知ることができたことで、一度限りではなく、ベトナムやベトナムの学生たちと関わり続けたいと考えるようになった。